

新渡戸稲造記念 第1回

がん哲学学校 in 志木

開設記念講演『次世代の姿：医療の共同体』

このたび、埼玉県志木市にて「がん哲学学校」をスタートすることになりました。

「がん哲学学校」とは、樋野興夫先生（順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授）が始められた「がん哲学外来」の対話を通して、がん患者のみならず家族や遺族、また地域の人々が、共に人生を探求し、人間としての学びを深めようとする場です。あらゆる世代の、あらゆる立場の人々が、お茶を囲みながらゆっくりと対話できる場所が「がん哲学学校」です。

2013年は、新渡戸稲造没80周年になります。新渡戸稲造は、国際連盟事務局次長などを歴任し、『武士道』の著者として、日本の純粋なる精神を世界に紹介しました。そして、公明正大な人道的立場から様々な社会奉仕活動を行ったことで知られています。今回は「がん哲学学校」開設記念講演として、新渡戸稲造の生き方を通して、樋野先生に『次世代の姿：医療の共同体』と題して講演していただきます。

尊厳ある人間として「生きる」こととは？対話の中から、互いに学びましょう。

「がん哲学外来」とは…

生きることの根源的な意味を考えようとする患者とがんの発生と成長に哲学的な意味を見出そうとする人との対話の場である。（NPO法人「がん哲学外来」設立趣意書より）

日時：2013年8月3日（土）

13：00～14：30

樋野興夫先生 個人面談

*個人面談をご希望の方は事前にご予約ください。

先着2組とさせていただきます。

同時にカフェも開催していますので

お気軽にお越しください。

15：00～17：00

記念講演 樋野 興夫校長

（順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授）

『～今、ふたたび 新渡戸稲造！～』



樋野興夫先生 略歴

1954年、島根県生まれ。

順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授、順天堂大学大学院医学研究科環境と人間専攻分子病理病態学教授、医学博士。米国アインシュタインチェースがんセンター、癌研実験病理部長を経て現職。順天堂大学医学部付属順天堂病院に2005年に「アスベスト・中皮腫外来」、2008年に「がん哲学外来」を開設。